



Baby&Kids Health Project.

Presented by, Luvtelli Tokyo & NewYork

What's Luvtelli Tokyo&NewYork.

母子健康にまつわる研究から啓発・環境整備までを一貫して行う数少ない組織です。



研究・リサーチ



《卵巢年齢共同研究プロジェクト》

順天堂大学×ロート製薬(株)×産科婦人科館出張佐藤病院×一般社団法人ラブテリ

《高崎妊婦栄養研究》

女子栄養大学×産科婦人科館出張佐藤病院×一般社団法人ラブテリ

《働き女子1,000名白書》

三菱地所×一般社団法人ラブテリ

NHK「クローズアップ現代」へのデータ提供、
保健室コラボ号「別冊Tarzan」他、
広告換算効果6億円超

環境整備



× 企業

健康経営視点で考える就業女性のための企業向けセミナー
女性の栄養失調を防ぐためのソリューション共同開発

× 自治体

住民を対象としたわかりやすい啓発活動及び対少子化活動

啓発・実践



《まるのうち保健室》

“測って・知って・学ぶ”働く女性のための街の保健室

《おやこ保健室》

妊娠中～産後のお母さん、子どもの発育発達のための保健室

《各種出版物》《全国開催セミナー》《レシピ開発》

基礎栄養学本・レシピ本・妊活本など、30万部超

日本の未来のために母子健康向上を活動目的に

医療・食・健康に関する13のライセンスホルダーが所属しています



ラブテリは、09年の春に代表理事である細川モモが発足した日本の母子健康を向上させることを活動目的とした予防医療プロジェクトです。社会を変えるためには冷静な知性 (intelligence) と愛 (Love) が必要という考えから“ラブテリ”というプロジェクト名に。母子健康の実態に対して国家予算が1%に満たない現状に危機感を感じ、研究から啓発・環境整備までを一括して行う数少ないプロジェクトチームです。

専門知識を民間にわかりやすく親しみやすく提供する

国内外の論文をデザインに起こし、誰もが読みやすい内容で届ける



優れた研究成果でも、民間人に普及されなくては意味を成さないという細川の考えのもと、国内外の優れた論文をデザインに起こし、読みやすく親しみやすい内容に編集。基礎栄養学本Ⅰ～Ⅲと妊活本「Baby Book I」、妊娠中の十月十日パーフェクト食生活ガイド「Baby Book II」などをリリース。デザイン性に高い評価を受け、多くのタレントがブログ等で紹介。

産婦人科で妊婦食事指導に導入されるなど、難しい専門知識をわかりやすく伝えることを得意とす流。

これまでの保健室の取り組み

約3,000名が参加し、いずれも満足度/また参加したい度は99%

日本の母子健康向上を活動目的とする〈ラブテリ トーキョー&ニューヨーク〉では、妊娠前の働く女性に向けた「街の保健室」と、妊娠中～子育て中のママの身体のケアと子どもの発育発達をサポートする「おやこ保健室」を全国各地で開催。いずれも予約がすぐ埋まり、イベント会場では長蛇の列ができる人気ブースです。

保健室参加者のデータをまとめて発表することで街や職場のより良い環境作りをサポートしています
※参加者の同意を得ています



おやこ保健室

ミキハウス プレママ・プレパパ&ベビーフェスタにて、初開催となる「おやこ保健室」を実施いたしました。おやこ保健室は、妊娠中から産後にかけて、ママとベビーの健やかな発育発達、ボディケアをサポートすることを目的としています。初めての取り組みとなる、理学療法士による正しい抱っこ紐のつけ方講座も大人気で、パパにも高い評価をいただきました。ベビーの育脳やママの授乳期の骨密度の変化など、真剣に耳を傾けるパパ・ママが多く、初開催ながら行列の絶えない保健室となりました。

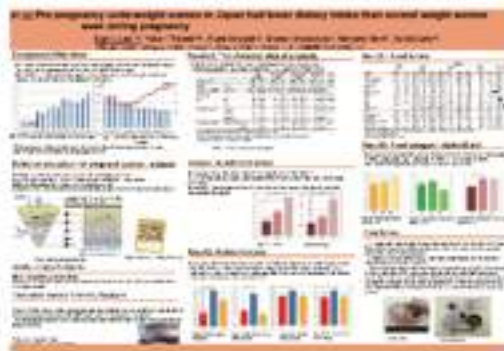


梅田保健室

西日本の女性の健康支援を目的とした、関西エリア初開催となる「梅田保健室」を実施いたしました。告知後まもなく予約が埋まり、最終的には募集枠を大幅に超えるお申し込みをいただきました。梅田保健室と同時開催の「美活・妊活セミナー」も大人気で約500名の関西在住の女性にご参加いただくことができました。満足度も非常に高く、また参加したい率は100%と高い評価をいただいています。新たに誕生する「梅田保健室白書」を来年度関西の女性たちに還元することが次の目標です。



サンディエゴで開催された国際学会で初めて発表しました!



「働き女子1,000名白書」に関して発表しています



第3期まるのうち保健室

3年目を迎えた「第3期まるのうち保健室」も、新たな測定プログラムに運動器の状態をチェックする〈ロコモ度テスト〉が加わり、丸ビル1階の丸の内カフェにて「まるのうち保健室カフェ」が期間限定オープンするなど、大幅バージョンアップ!さらに、体内の活性酸素の量から錆び度を調べる〈錆びチェック〉と、大豆製品から女性ホルモン様物質のエクオールを作り出せるかを調べる〈エクオールチェック〉の2つの尿検査を導入。日本にはなかなか存在しない健康な若い女性の健康状態についてリサーチを継続しています。参加者には今期より食生活だけでなく、運動と睡眠も含めた新たな生活習慣を提案しています。さらに、過去に「まるのうち保健室」を受けた2,000名の参加者にも新たに部活動プログラムや特別セミナーを提供するなど、3年目の挑戦が始まっています。



ウェルネス・アンバサダー育成講座

私たちと一緒に身近な人たちに健康の大切さ、カラダや食事の基礎知識を伝えていくウェルネス・アンバサダー育成講座を全国で開催しています。基礎知識の習得はもちろん、ここでしか習えない最新知識もしっかり学ぶことができます。受講生は各種保健室で測定スタッフとしても大活躍!ラブテリ スタッフとともに全国の女性の健康支援を行っています。





ママとベビーの健康を支えたい

少子化により自治体の1/4が母子健康の予算を持たず

世界的に「最初の1,000日」が注目を集めている中、日本では少子化の影響により、1/4の自治体が母子健康に関する予算を確保していないなど、届けられるべき情報が子育て世代に届いていません。得るべき知識を得れずにいることが日本の子どもたちが世界一睡眠時間が短いことや出生体重が減り続けていることに影響していると考えられます。

※胎芽から2歳までの1,000日が生涯の健康の基盤となるため、適切な介入が重要であるとユニセフが唱えたもの



ママの健康を支えたい理由

産後の身体の回復をサポートする

- その① 20代女性の4人に1人が痩せ型であり、痩せている女性から生まれる赤ちゃんは低出生体重児になりやすい。
- その② 妊娠・出産を経て1年以内に復職するママが多く、身体が十分に回復していない状態で仕事の両立が始まる。
- その③ 授乳中は骨密度の変化が大きく、高齢出産の女性において産後の腰椎骨折が増えている。
- その④ 自然妊娠・不妊治療の成功率や赤ちゃんの発育発達に関わるビタミンDの不足・欠乏がママ世代が最も深刻である。



ベビーの健康を支えたい理由

正しい発育発達をサポートする

- その① 出生体重によりストックできる栄養素の貯蔵量が異なり、体重の小さい赤ちゃんでは生後6ヶ月からの貧血リスクが高まる。
- その② くる病（骨が歪曲する病気）予防のため、ビタミンDの摂取と適度な日光浴の必要性を両親に伝える必要がある。
- その③ 日本の子どもは世界一睡眠時間が短い。両親に子どもの睡眠と発育発達に関して正しい知識を伝える必要がある。
- その④ 夜泣きと腸内細菌の関連が報告されており、子どもの腸内環境は食中毒発症の重症度なども差がつくことから、家族の良い腸内環境を育む必要性を両親に伝える必要がある。

ママとベビーの健康を支えたい



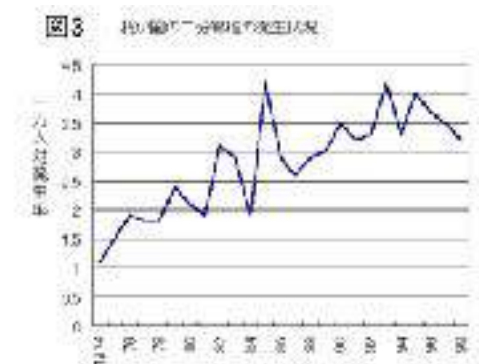
ママ世代の痩せ増加が赤ちゃんに影響しています
出生率に反比例して低出生体重児の出生率が右肩上がりに



20~30代のママ世代の摂取カロリーは終戦直後を下回っており、20代ではBMI 18.5未満の痩せが4人に1人に達しています。痩せたお母さんからは将来、生活習慣病にかかるリスクが高いことが懸念される低出生体重児が生まれやすく、日本はOECD加盟国において低出生体重児の出生率ももっとも高く、平均6.5%であるのに対し、約10人に1人の赤ちゃんが低出生で誕生しています。



ママ世代の栄養失調が赤ちゃんに影響しています
葉酸不足による二分脊椎症やビタミンD不足によるくる病が増加

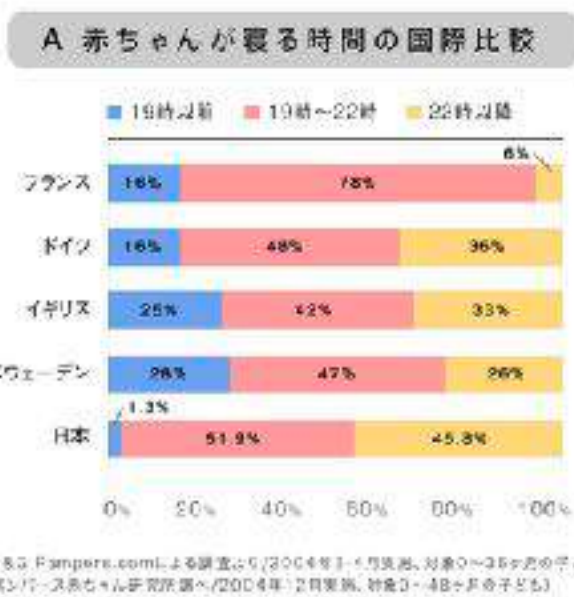


平成11年度厚生科学研究(子ども家庭総合研究)シグ等に関する研究

20~30代のママ世代は摂取カロリーが大幅に不足しており、結果として多くの栄養素が不足しています。妊娠前~妊娠中、子育て中に必要な栄養素が充足しないことにより、二分脊椎症やくる病が増加しています。また、ママの貯蔵鉄と新生児の貯蔵鉄が比例することや※、出生体重により貯蔵している鉄分の量に差があることから、乳幼児の貧血を予防するためにもママの栄養状態が大切です。



親の知識が子どもの健全な発育発達に不可欠です
日本の子どもは世界一睡眠時間が短く、生活習慣病予備軍も問題です



乳幼児の約半数が22時以降の就寝

親のヘルスリテラシーが子どもの発育発達に影響にします

OECD加盟国のデータによると、日本の赤ちゃんは世界で2番目に睡眠時間が短く、約半数の赤ちゃんが22時以降に就寝しています。1位の韓国とは立ったの1分差であり、生活リズムの乱れによる肥満などへのリスクが懸念されています。「葉酸と二分脊椎症」「ビタミンDとくる病」も知識によって予防できることであることから、親のヘルスリテラシーが子どもの発育発達に影響することは間違いありません。

生活習慣病のリスクを抱える子どもたちが増えています

子どもを対象とした生活習慣病の血液検査の実施は義務ではなく、自治体によって実施率が異なります。実施した自治体においては、子どもであっても尿酸値・中性脂肪・コレステロール・血圧・HbA1cに異常値が確認されており、食生活や生活習慣の乱れが要因であると考えられています。

※胎芽から2歳までの1,000日が生涯の健康の基盤となるため、適切な介入が重要であるとユニセフが唱えたもの

ママとベビーの健康を支えたい

胎芽～2歳まで

「最初の1,000日」で介入が大切な理由：その①貧血

妊娠前～妊娠初期

約1,000万人もの
日本女性が
隠れ貧血です



出産時の出血によって
さらに貧血が悪化することも

出産



出産後

乳幼児～学童期の
貧血は子どもの発育に
悪影響です



お母さんが貧血だった場合

母親の貯蔵鉄（フェリチン）値は新生児の貯蔵鉄（フェリチン）と比例することが報告されています。諸外国では、60ng/mLで鉄剤処方対象となりますが、日本女性の平均は22.5～25.7ng/mLであり、明らかな鉄欠乏性貧血である15ng/mL未満の女性が22%にもなります。さらに、20～40歳代に限定すると40%にも達し、なんと約1,000万人もの日本女性が隠れ貧血の状態にあります。

※平成21年国民健康・栄養調査
※聖路加国際病院予防医療センター調べ

赤ちゃんへの影響

赤ちゃんは母親に鉄分を分け与えられて生まれてきますが、生後6ヶ月を過ぎるとストックが枯渇し始め、離乳とともに「離乳期貧血」にかかるリスクがとくに完全母乳の赤ちゃんにおいて高まります。乳幼児～学童期の貧血及び鉄欠乏は、運動機能・認知機能・精神活動といった神経系の発育に長期にわたり影響を及ぼすことが明らかになっています。母親から受け継ぐ鉄分の量は、赤ちゃんの出生体重にもよるため、妊娠前から母親の痩せや貧血を防ぐことが重要です。

※1. Lozoff B, et al : Dose-response relationships between iron deficiency with or without anemia and infant social-emotional behavior. J Pediatr 152 : 696—702, 2008.
※2. Bruner AB, et al : Randomised study of cognitive effects of iron supplementation iron-anemic iron-deficient adolescent girls. The Lancet 348 : 992—996, 1996.
※3. Halterman JS, et al : Iron deficiency and cognitive achievement among school-aged children and adolescents in the United States. Pediatrics 107 : 1381—1386, 2001.

ママとベビーの健康を支えたい

機会提供の方法

栄養教育の機会提供が親子の健康を守ります

妊娠中の栄養教育により成果を上げている自治体や事例があります



熊本県水俣市では、低出生体重児の出生率が13%に達してしまったことから、母子手帳交付時に全ての妊婦に一時間の個別指導を実施。その結果、翌年には4%に減少し、低出生体重児の対策に成功しています。また、弊社のベビーブックを指導テキストとし、疾患の有無に関わらず全ての妊婦に栄養指導を実施している産院では、取り組み開始後から平均出生体重が増加し、3,000gを超えています。国内外においても妊娠時の適切な教育機会の提供により、赤ちゃんの健全な発育発達が促されることが報告されています。

日本では疾患のない妊婦は個別食事指導を受ける機会がありません

妊娠をすると、両親学級により簡単な体重管理や食生活の全体指導が行われますが、疾患がない場合は管理栄養士による個別栄養指導を受ける機会がありません。ですが、妊娠初期から後期にかけての適切な摂取カロリーの増加や塩分・糖分の管理は全妊婦に必要であり、専門家のアドバイスが必要です。

妊婦のカロリー不足は全国的な問題です

妊娠前に摂取カロリーが足りていない女性たちは妊娠中もカロリー不足が続き、全国的に妊婦の摂取カロリーが不足しています。妊娠中のダイエット意識や所得格差、妊娠前からの朝食欠食習慣、働く女性の増加などが背景因子として考えられます。



効果的な指導のための
研究の継続が求められます

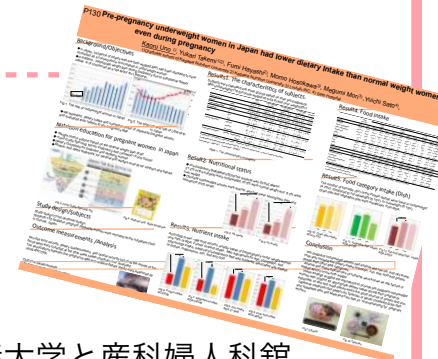
産科をフィールドにした指導の効果検証を重ねます



より効果的な指導を行うために、日本女性に適したツール類の開発や指導内容の検証を繰り返し実施する必要があります。所得格差や勤務状態、エリアによる食生活の違いなど、考慮すべき点が複数あり、産科をフィールドにデータを取り続けることで指導内容の完成度を高めていくことが求められています。

高崎妊婦栄養研究

ラブテリでは、女子栄養大学と産科婦人科館出張佐藤病院との共同研究により、妊婦への栄養教育について国際学会で発表しています。



年間協賛金
各社50万



Baby&Kids Health Project.

Presented by, Luvtelli Tokyo & NewYork

パートナー
メディア

実施内容

- ・研究 (共同研究)
- ・啓発
- (1)「おやこ保健室」
- (2)メディア発信
- (3)自治体共創
- ・ソリューション提供
- (1)各社との共創コンテンツ
- (2)妊婦遠隔カウンセリング
- (2)自社開発アイテム
- ・格差対策
- コラボおやつを「こども宅配」「こども食堂」に提供

d 大地宅配
ヘルシースナック開発



mikiHOUSE
離乳食レシピ動画開発



森下仁丹株式会社
VDプロモーション



・おやこ保健室の全国実施



自社の取り組み

- ・ベビーブック3リリース
- ・自社サイトのリニューアル
- ※レシピ検索・成長曲線・情報発信
- 7タイプ別オートチェック 他



Oisix
離乳食開発



NEVER SAY NEVER
ロート製薬
葉酸プロモーション



・排卵検査薬/妊娠検査薬に
葉酸啓発リーフレットの同梱

SUNTORY
クラウドファンディング



・おやこ保健室の全国実施

クラウドファンディング

保健室を
10万人に

- ・既存参加人数 約3,500人
- 〈エリア保健室〉
- ・300人 × 7エリア = 約2,100人
- 〈おやこ保健室〉
- ・300人 × 7エリア = 約2,100人



中日新聞

開催地・札幌・川崎・名古屋

MIKIHOUSE LAND

開催地・札幌・横浜・名古屋・埼玉
幕張・広島・京都・静岡・岡山

妊活・妊婦栄養指導
遠隔カウンセリング



- ラブテリ栄養士カウンセリング
- ・ハンガアウト or 電話
 - ・食生活調査 (BDHQ?)
 - ・体型タイプ
 - ・妊婦理想献立
 - ・栄養と発達発育の情報提供

- + α オリジナル検査キット
- ・錆びチェック尿検査
 - ・腸内細菌解析 (夜泣きの関係アリ)

妊婦本人からの費用をもらわない設計を
フィードバックキットに資料同梱など

自社サイト

- ・食育ツールのダウンロード
- ・7タイプ別体型判定
- ・妊娠時体重増加予測システム
- ・成長曲線システム
- ・「モモ食堂」検索システム ※離乳食版も
- ・こどもの健康をテーマとした専門家のコラム

豊富な自社食育ツール

研究



家庭における健康的な食生活を叶える
実践ツール開発のための

食費調査研究



メディアパートナー
HAPPY MAMA FESTA 実行委員会



中日新聞

開催地

名古屋

川崎

札幌

来場者数
約20万人



乳幼児ママを対象としたビッグイベントで情報発信

幼稚園や小児科でも配布

中日新聞

TV特番

SNS

マガジン

HAPPY MAMA FESTA × おやこ保健室

名古屋・川崎・札幌の3エリアで、20～30代の乳幼児ママに向けたイベントを実施している中日新聞主催の「HAPPY MAMA FESTA」にて、弊社の「おやこ保健室」をブース出展し、来場者に“測って・知って・学ぶ”機会を提供します。

また、おやこ保健室のデータと子どもの健やかな発育発達に役立つ健康情報を各種メディアを通じてお届けします。子どもの健やかな成長を願う親御さんに向けて、ソリューションをお持ちの企業とコラボし、健康増進支援を行いたいと考えております。本プロジェクトの協力企業名が入ったリーフレットは参加者全員に配布いたします。



プロジェクトへの協賛のお願い

年間50万円

- ①プロジェクトホームページへのロゴ掲載
- ②「ママフェスタ」「おやこ保健室」等、イベント配布用リーフレットへのロゴ掲載・5万部
※企業ロゴ＋一言メッセージ掲載
- ③「おやこ保健室」にて企業ロゴパネル展示
- ④弊社出版物「BABY BOOK III」へのロゴ掲載
※初版2万部発行予定

中日新聞主催の
「HAPPY MAMA FESTA」への
「おやこ保健室」へのご協賛及び、
妊婦遠隔指導における商品プロモーションへの
ご協賛も合わせてご検討くださいませ。



おやこ保健室のご紹介

訴求ターゲット

おやこ保健室

出産

働く女性

妊婦

新生児・乳幼児ママ

子どものママ

- ・ エリア保健室
- ・ まるのうち保健室

おやこ保健室 展示パネル&配布物



妊娠～産後のママの身体の変化と赤ちゃんの発育発達について解説しているパネル「育脳」「母子の骨の変化」「腸内環境」「貧血」「産後の体型コントロール」等

産後は骨密度の回復を意識しましょう

骨

授乳中は骨密度が減少します。栄養を意識して産後後にスムーズな回復を！

授乳中は骨へのカルシウムの吸収率が高まります

産後の骨密度の回復を促すには、産後5ヶ月以内の骨密度の回復を促すことが重要です。

骨密度を高めるには、カルシウムとビタミンDの摂取が重要です。

カルシウム源：牛乳、ヨーグルト、チーズ、小魚、大豆製品、海藻類、緑黄色野菜、果物

ビタミンD源：日光浴、魚肝油、キノコ類、卵黄

日光浴と運動は、骨密度を高めるのに効果的です。

腸内環境を整えて家族でより健康に！

腸内細菌の早産予防に世界が注目！

子どもを病気から守る大切な存在です

腸内環境を整えるには、食物繊維の摂取が重要です。

食物繊維源：野菜、果物、豆類、海藻類、全粒穀物

腸内環境を整えることで、免疫力が向上し、病気を予防できます。

腸内環境を整えるには、乳酸菌の摂取も効果的です。

乳酸菌源：ヨーグルト、発酵食品

産後はママの身体の回復も大切です！

貧血

産後には鉄分不足による貧血が頻りに見られます。

鉄分不足による貧血は、疲労感、めまい、頭痛、食欲不振などを引き起こします。

鉄分源：赤身の肉、魚、豆類、海藻類、緑黄色野菜

鉄分の吸収を促進するには、ビタミンCの摂取が効果的です。

ビタミンC源：柑橘類、イチゴ、パプリカ、ピーマン

おやこ保健室
オリジナル

産後のトラブルである腰痛・肩こり・腱鞘炎を防ぐ抱っこの仕方や抱っこ紐付け方、姿勢についてを理学療法監修で展示及び個別指導

おやこ保健室
オリジナル

幼児と小学生の1日の理想献立の食材の栄養・効能について特集しているポストカードを全参加者に配布

授乳中ママの悩み解決！

授乳中のママの悩みを解決するためのヒントを掲載しています。

授乳の回数や時間、母乳の出が悪いなどの悩みを解決するためのアドバイスが満載です。

授乳中のママの健康を維持するためのポイントも紹介しています。

幼児と小学生の1日の理想献立

幼児と小学生の1日の理想献立の食材の栄養・効能について特集しています。

野菜、果物、豆類、海藻類、全粒穀物などの食材の栄養成分と効能が詳しく紹介されています。

健康的な食生活を送るためのヒントも掲載されています。

産後の体型コントロール

産後の体型コントロールのためのヒントを掲載しています。

食事のコントロール、運動の取り入れ方、ストレスの解消法などが紹介されています。

健康的な産後の生活を送るためのポイントも紹介されています。

おやこ保健室 実施プログラム

①受付（10分）
※測定希望のお客様



②測定（10分）
⇒ヘモグロビン・骨密度



③食事調査（10分）
※カウンセリング希望のお客様



④個別カウンセリング（15分）
⇒公認カウンセラーによる個別カウンセリング



特別プログラム

①理学療法士によるトラブル予防法
肩こりにならない抱っこ紐のつけ方
腰痛にならない抱き上げ方
腱鞘炎にならない抱っこの仕方



発育曲線
チェック

その他

パネル展示



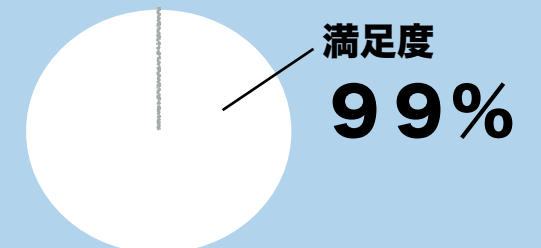
協賛企業ブース



〈実施例〉

ミキハウス マタニティ&ベビー フェスタ
⇒幕張メッセで開催されたミキハウスのファミリーセール内の一区画に出展した「おやこ保健室」多くのご家族・ご夫婦で賑わい、長蛇の列ができました。

来場者 満足度



おやこ保健室 レイアウト

《会場》

幕張メッセ

《イベント》

ミキハウス マタニティ&ベビーフェスタ

IN / OUT

《イベント来場者数》

10,337名

《保健室会場スペース》

6m×6m

《動員実績》

2日間の動員実績・・・556名



別会場にて実施

『ベビーの発育発達を助ける
食生活セミナー』細川モモ



理学療法士による
カラダケアブース



ウェイトニング&パネル展示
スペース



協賛企業ブース



ウェイトニング スペース



ヘモグロビン
測定



カウンセリング



また参加したい率
99%

骨密度
測定



カウンセリング



アンケート回答

